

## 縄文の女神まつり 「コロナ収束を願うお焚き上げ」

舟形町

### 1 はじめに

近年、世界的に新型コロナウイルス感染症が拡大している中で、未だに収束の見通しが立っていない。そこで、町条例で定める「舟形町縄文の女神の日(8月4日)」に町高校生ボランティア「ふなっ子」が主体となり、古来の縄文文化の風習にならって火起こしやお焚き上げを行い、新型コロナウイルス感染症の早期収束を願うことを目的とした「コロナ収束を願うお焚き上げ」を開催した。

### 2 事業のねらい

この事業は、町内の小・中学生や一般の方から「コロナ早期収束の願い」を募集し、疫病退散や無病息災など祈禱を行い、お焚き上げすることでコロナの早期収束を願うとともに、縄文文化に親しんでもらうことをねらいとしている。また、高校生が主体となって事業に取り組むことで、地域の活性化や次世代の地域人材の育成に繋げる効果も期待している。

### 3 具体的な取り組み

事業内容 開催日程：令和3年8月4日（舟形町縄文の女神の日）

会 場：舟形町西ノ前遺跡公園 女神の郷

#### (1) コロナ早期収束の願い

##### ①高校生による祈りの言葉

- ・ふなっ子「コロナが1日でも早く収束し、世界的に平和な日常が訪れることを願っています。(一部抜粋)」

##### ②小、中学生や町内の方の想い

- ・小学生 「コロナ自身が活動を自粛してほしい」
- ・中学生 「1日も早く家族と一緒に旅行できるようになってほしい」
- ・一般 「家族がコロナに感染することなく、健康で過ごしてほしい」



## (2) 地域人材の連携

- ①地元の神主の協力を頂き、コロナ収束のご祈禱を行った。
- ②高校生が、元町地域おこし協力隊の方と連携し、火起こしを実施した。



## (3) 縄文の炎をパラリンピック聖火として

- ①高校生が火起こしした「縄文の炎」を町内福祉施設でパラリンピックの聖火として点火した。
- ②パラリンピック採火式で、コロナ収束の願いを込めた「縄文の炎」をつないだ。



## 4 成果(◎)と課題(△)

- ◎町内全体に「コロナ収束の願い」を募集することで、新型コロナウイルス感染症の注意喚起や縄文文化の情報発信にも繋がった。
- ◎高校生が主体となって実施することで、日常生活で経験できない火起こしやお焚き上げなどの体験から、次世代の地域人材の育成促進を図ることができた。
- ◎地域人材との交流や事業間の連携により、「縄文の炎」をパラリンピック聖火までつなぐことができた。
- △新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から人を集めての事業開催ができなかった。

## 5 終わりに

未だに新型コロナウイルス感染症収束の見通しが立たない中で、一部事業を中止するなど社会教育にも多大なる影響が生じている。そのため、舟形町では、子どもから高齢者まで誰でも社会教育の機会を受けられるように、新型コロナウイルス感染症防止対策の徹底やオンラインによるイベント開催など新生活様式を考慮した事業の展開を検討し、社会教育の充実を目指していく。

# 大人の社会科見学「真室川スタディツアー」

真室川町

## 1 はじめに

平成31年3月に策定した『第1次真室川町教育振興計画』において、「文化に親しみ・文化を愛する環境づくり」を重点施策として定め、暮らしの質を高め、潤いのあるものにするため、文化や本物の芸術にふれられる機会、町の魅力を再発見する機会や環境を整えるとしている。

本町には、先人たちが生活文化や暮らしの中から育んできた多くの資源が残されている。そうした町の誇れる資源を体系的に学ぶプログラムを実施することで、重点施策の達成に努める。



## 2 事業のねらい

町にはたくさんの資源があるにも関わらず、「真室川には何もない」との声が多い。子どもたちは学校における「ふるさと学習」の機会により、地域教材を多く学んでいるが、その親や祖父母世代の大人は、日々の生活に追われ地域のことを知らないままに生活しているのではないかという発想から、幅広い年代が町内をめぐり歴史・文化・自然・食に直接触れるツアーを開催することで、大人が子どもたちと一緒に、町の文化や魅力を再認識することを目的としている。

## 3 具体的な取組み

コロナウイルス感染症蔓延防止の観点から、参加者を町内在住の25名を上限に、時間を短縮した行程とし、以下の2回のおり開催した。

### 【第5回真室川スタディツアー 戊辰戦争と明治の夜明け編】



日時：令和3年6月26日（土）

参加者数：25名

内容：戊辰戦争及位の戦い台場跡から羽州街道を歩き、地藏堂、延命寺、明治天皇御小憩所、落合滝といった及位地区にある地域資源について、講師の説明を交えながら見学を行った。

参加者の声 ⇒ アンケートから

- ・地域に”ある”と知っているだけではわからない事や気づきが、実際に見る、歩くなどの五感を通して感じる事ができると確信しました。子どもたちにも、知識ではなく体験したことを言葉で伝えられるようにしていきたいと思います。
- ・同じ町内に居住していても、知らない地域が多く新鮮でとても楽しい時間を過ごせました。
- ・初めてのツアー参加で、とても学びの多い内容でした。羽州街道の歴史をたどりながら、学びを深めることができ有意義でした。 など

## 【第6回真室川スタディツアー 歴史と文化への誘い in 差首鍋・平枝編】

日時：令和3年10月23日（土）

参加者数：24名

内容：象獅子岩、正厳院、不動明王の滝、ふるさと伝承館での音楽公演及び昔語り、差首鍋館跡といった差首鍋・平枝地区にある地域資源について、実演や講師の説明を交えながら見学を行った。



参加者の声 ⇒ アンケートから

- ・真室川に住んでいても、まだ行っていないところ、知らないことがたくさんあります。できる限り参加して、真室川の新しい魅力を知っていきたいと思います。
- ・雨の中で見る山々もまた心とむことができよかったです。不動明王の滝はマイナスイオンを十分味わうことができ、最高の思い出でした。 など

### 4 成果と課題

事業年度が3年目を迎え、本事業が認知されてきていることから、参加者のリピート率が高い。また、町内に長く居住している方でも、新たな学びがあったとの感想も多く、町の文化や魅力を再認識する機会となっていることについては、一定の効果があるものと思われる。その反面、当初の事業目的である子育て世代の参加者は少なく、幅広い年代が参加しやすい開催方法を検討していく必要がある。また、コロナ禍により町内居住者のみの参加者としていることもあり、町外への情報の発信という面でも改善の余地がある。また、参加者以外にも町の魅力を認識していただけるよう、『大人の社会科学副読本（仮称）』を今後とりまとめ、より深い学びにつながるような取り組みを併せて検討していく。



### 5 終わりに

施策の展開は半ばであり、次年度以降も事業を継続していく予定であるが、このツアーが一つのきっかけとなり、町民自らが町内の魅力の掘り起こしのための自発的な学びにつながることを期待するとともに、より若い世代にも参加していただき、町の魅力を再認識していただけるよう事業を展開していく。

# スポーツ推進委員による町内散策イベント

## 真室川町

### 1 はじめに

真室川町スポーツ推進委員会は、町民のスポーツに対する関心と理解を深めるため、実技の指導や、事業の企画・実施を行っており、町内の真室川・安楽城・及位の3地区にそれぞれ委員を配置し、町のスポーツ活動を支えている。

昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の拡大により、先が見えない厳しい状況の中で、日常生活においても多くの制限があるなか、心身面での健康の維持に様々な影響が想定された。真室川町スポーツ推進委員会としてもスポーツイベントが相次いで中止となっており、活動ができない状況であった。

### 2 事業のねらい

町内散策イベントは、新型コロナウイルスによる自宅待機で体を動かす機会が減少した今だからこそ、自分のペースで散策し、体を動かすことの楽しさを再度認識してもらうことを目的に、真室川町スポーツ推進委員会が企画・運営したイベントである。

また、町民であっても足を運ぶ機会が少ない場所を選定し、町内の良さを認識してもらう取組みを実施した。

### 3 具体的な取組み

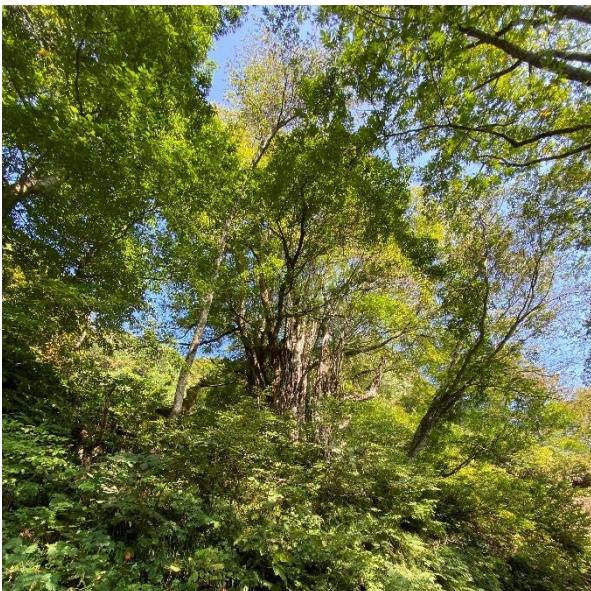
○第3回町内散策イベント 「高坂ダム散策ツアー」(第17回町民レクリエーション大会競技)

期日：令和3年10月10日(日)

時間：午前8時30分～

場所：高坂ダム

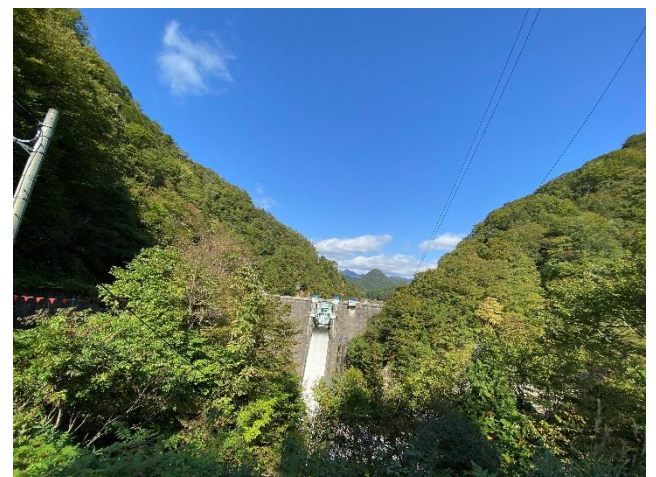
小学生から高齢者までの15名が参加し、高坂ダムやダム周辺の林道を散策した。参加者は、景色の写真を撮ったり、植物を観察したりしながら、それぞれ自分のペースで散策を行った。





#### 4 成果と課題

- 感染症対策を取りながら体を動かす機会を提供し、体を動かす楽しさ、大切さを認識してもらうことができた。
- 町民であってもなかなか足を運ぶ機会が少ない場所を選定し、町の魅力を再発見することができた。
- スポーツ推進委員会が自ら企画から運営までを行うことができた。
- 参加者が固定している。また、若年層からの参加者が少ないため、周知方法を工夫する必要がある。



#### 5 終わりに

県境をまたいでの移動の自粛や、スポーツ少年団・部活動等での活動制限があり、他団体と交流できない今だからこそ、町内散策を行うことで、体を動かしながら真室川町の魅力を再度発見することができ、非常に有意義な活動となった。

今後も引き続き、新型コロナウイルス感染症対策を行いながら、町民が体を動かすきっかけとなる事業を企画し、町のスポーツ振興に取り組んでいきたい。

# 「おおくら雪山塾」

大蔵村

## 1 はじめに

「おおくら雪山塾」とは

例年大蔵村では、夏休みを利用した体験型学習「おおくら葉山塾」を実施している。しかし、昨年度は新型コロナウイルス感染症対策のため、村内行事の縮小、中止を余儀なくされていた。そのような中でも、子供たちの体験と学習、生涯教育の場が必要であるため、青少年育成推進員の方々と代替事業を考案した。

大蔵村が日本でも有数の豪雪地帯であり、大蔵の雪を活かし、村の歴史や産業に触れる機会を作る目的で、代替事業「おおくら雪山塾」の開催に至った。日帰り事業として行われたこちらの事業は、大蔵村青少年育成推進員や高校生ボランティア「ぎゃらくと」、地域住民に講師になっていただき行うことができた。

## 2 事業のねらい

- ①地元の魅力を再発見する
- ②自然に対する価値観や感性を養う
- ③生きる力を育む

## 3 具体的な取り組み

- ・対象：大蔵小学校 5・6年生
- ・参加者数：5年生 5名  
6年生 8名 計 13名
- ・実施日：令和3年3月21日（日曜日）
- ・活動場所：大蔵村肘折地区 大蔵鉦山跡地
- ・学習内容：



①クロスカントリースキーを使ったラングラウフ



②大蔵鉦山についての学習



③かまくら作り

## 4 成果と課題

### ①成果

- 新型コロナウイルス感染症対策を十分に行い、子供たちが安心して参加できる環境を作ることができた。
- 人の手があまり入っていない自然に触れることにより、子供たちの好奇心や、探求力を引き出すことができ、自ら進んで学ぶ力をつけることができた。
- 地元の隠れた魅力を再発見し、郷土愛を育むことができた。
- 小学生と高校生、学生と地域の大人など世代を超えた繋がりを作ることができ、価値観や伝統文化の交流を図ることができた。

### ②課題

- 子供たちの体力やスキーの技術に差が生じ、予定よりも1つの活動に時間がかかってしまったため、計画していた内容の一部は行うことができなかった。
- 今回の対象生徒を小学5・6年生に限定したが、さらに幅広い年齢で楽しんでもらえる内容を検討していきたい。



## 5 終わりに

新型コロナウイルスの脅威がいまだ各地に影響を及ぼしており、大規模な活動については自粛を余儀なくされている。そんな日本情勢で、新たに感染予防対策等の工夫を凝らしたユニークな活動が生まれてきていることも事実ある。大蔵村でも生涯教育として学習機会を減らすことなく、子供や大人、協力してくださる地域住民の皆様に新しい発見や、感動が詰まった活動を意欲的に展開していきたい。





## オクトーバーラン&ウォークへの参加

### 大蔵村

#### 1 はじめに

大蔵村では、生涯学習の重点として『村民ひとり一学習一スポーツ』を目標に掲げて、事業に取り組んでいる。しかし、新型コロナウイルス感染症の拡大により、今まで行っていた大会やイベントが中止、縮小され、運動する機会が減り、スポーツを楽しむことが少なくなっているのが現状である。このような状況の中、少しでも体を動かし、楽しくスポーツに取り組んでもらおうと、『オクトーバーラン&ウォーク2021』に参加し住民の運動不足解消、健康増進を図った。

オクトーバーラン&ウォーク2021は、一般財団法人アールビーズスポーツ財団が主催し、総務省、スポーツ庁、そして、朝日新聞社や山形新聞社をはじめとする地方紙が後援するスポーツイベントである。10月中の1ヶ月間のウォーキングの歩数やランニングの距離を、ランキングを通して競う参加無料のイベントである。

#### 2 事業のねらい

新型コロナウイルス感染防止の観点から、密を避け、人混みの中への往来を避けての生活を余儀なくされ、「ステイホーム」ばかりが推奨され、体を動かす機会も減り、運動不足に陥ることになる。そのような中、ウォーキングは自分のペースで、自分のやりたい時に、密を避けて出来るスポーツであることに着目した。オクトーバーラン&ウォークでは「全国個人ランキング」「大蔵村個人ランキング」「全国自治体対抗ランキング」「山形県自治体対抗ランキング」が毎日更新されるので、歩数、歩行距離を競いながら、楽しく運動を継続出来ると考え、この事業に取り組んだ。

#### 3 具体的な内容

- ① チラシを村内回覧し、住民の方へのスマートフォンでの登録と参加を促した。
- ② 村職員が率先して参加し、隣人や友人に声掛けしながら、イベントへの周知と積極的な参加者を促した。

- ③ 10月10日(日)に行われたスポーツレクリエーション祭で、スポーツ推進委員会での意見を取り入れ5.5kmと3.0kmのウォーキングの部を設けて、参加者を増やす取り組みを行った。日頃からウォーキングに取り組んでいる約20名の参加を頂いた。

#### 4 成果と課題

- ① 大蔵村では、113名の登録、参加者があり、全国住民人口当たりの参加率ランキングで、第2位という結果であった。  
また、自治体対抗(歩数)の山形県内では、1位米沢市、2位高畠町に次いで、大蔵村は第3位という素晴らしい結果を残すことが出来た。
- ② 参加者からは、「血糖値が大幅に下がったなどの効果が見られた」という声があった。
- ③ スマートフォンでの登録が苦手な方や、高齢者の方に、やり方をもっと周知すれば、オクトーバーラン&ウォークへの参加者は増えると考えられる。大蔵村全体で歩数や歩行距離が上位の方を表彰するなどすれば、さらに競争心が芽生えてくると考える。
- ④ 健康維持を考えた場合、10月中だけでなく、1年を通した活動にしていきたいが、雪国の場合、外出の機会が減るので、冬季間の活動をどうするか、今後の課題である。

#### 5 終わりに

常にスマートフォンを持ち歩けば、家の中でも歩行することにより、歩数を増やすことが出来る。今回オクトーバーラン&ウォークに参加した方は、朝、夕方、休日など、自分のペースで自宅周辺などを歩くなどして、歩数を伸ばす努力をしたようである。

ウォーキングは、誰でも、気軽に、景色を楽しみながら出来るスポーツである。介護予防、生活習慣病の予防などに効果がある。自分の歩数を伸ばすため、周りの方と競い合いながら、健康増進に繋げていけるよう、このイベントへの参加を続けていければと考える。

